

入選

「優先席」ってだれのもの

千葉県 二宮小学校 六年
君塚 瑠華

私は電車に乗ることが多いです。すいているときもあれば、ラッシュ時間に乗ることもあります。この前、私は都内の病院への定期受診のために、ラッシュ時間の電車に乗りました。そのときは、3歳の妹もいっしょでした。

たまたま乗った車両は、「優先席」の前で、座っていた人達たちは、全て若い人たちでした。3歳の妹は、人に押されて少しグズグズして、立っているのも大変そうでした。みんな気づいているのに、けいたいをいじったり、化粧をしたりしていました。

そのうち、立っていられなくなった妹が「抱っこ」と言い、母は妹を抱っこして、片手でつかわにかまわり、とても大変そうでしたが、だれも何も言わず「優先席」に座り続けていました。

私はイライラしました。『優先席』って書いてあるのに。みんな知らんぷりで、車内放送でもゆずるようなアナウンスをしているのに。私は母にこそっと、

「優先席なのにだれもゆずってくれないね。」と言うと、母は、

「自分の当たり前や正義が、必ずしもみんないっしょじゃないんだよ。」と言いました。

私は、さっぱり意味がわかりませんでした。大変な人がいたら、助け合うのが普通だと思っていました。大人になると、知らんぷりして、自分のことだけ考えるものなのかと、さらにイライラしました。

そのうち、私達のとなりに立っていた女性が、急に座り込みました。顔も真っ青でした。

「すみません。だれか席ゆずってあげてくれませんか！」と母が言いました。すると、座っていた3人のうちの一人が、「ああ……。」と言って、席をゆずりました。

しばらく座っていた女性は、だいぶ顔色も良くなり、「ありがとうございました。」と言って、電車を降りて行きました。

私は、座り込んだ女性を見ても、席をゆずろうとしなかった人たちをととてもはずかしいと思い、あそこで声をあげた母を、とてもたのもしかったです。

その日、母と「優先席」について話しました。母は、

「見た目だけではわからない病気の人もあるから、ゆずってもらえると思ってはダメだし、ゆずってもらえることは、当たり前ではないよ」

と言いました。そして、ゆずってもらえたら、

「その人にとっては親切な人だから、いっぱい感謝しないといけないね」とも話しました。

私は、自分の思いだけでイライラしてしまい、少しはずかしかったです。でも、それと同時にやはり、必要としている人に、席をゆずってあげられる人になりたいと思いました。

そういった人として、ごく当たり前のことを、助け合うということをもっと多くの人が当たり前にできる、あたたかい世の中になって欲しいと思いました。